

※関係法令等の改正に伴い、平成26年12月1日以降に計算期間（または特定期間）の末日を迎える投資信託より、運用状況のご報告の形式および方法が変更になりました。



交付償還運用報告書

UBSコモディティ・ファンド (UBSブルームバーグCMCI連動型)

追加型投信／海外／その他資産（商品先物）／インデックス型

第6期（償還日 2014年12月5日）

作成対象期間（2013年12月6日～2014年12月5日）

受益者の皆さまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、「UBSコモディティ・ファンド（UBSブルームバーグCMCI連動型）」は、2014年12月5日をもちまして信託約款の規定に基づき償還させていただきました。

当ファンドは世界の代表的商品市況を表すUBSブルームバーグCMCI総合指数（円換算ベース）に概ね連動し、世界の商品市況を反映する投資成果を目指して運用を行います。当期におきましても、当該運用方針に沿った運用を行いました。ここに、その運用状況をご報告申し上げます。

当ファンドをご愛顧いただきましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

第6期末（償還日2014年12月5日）

償 還 価 額	11,674.47円
純 資 産 額	1百万円
騰 落 率※	0.7%
分 配 金 合 計	0円

※騰落率は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算しています。

UBSグローバル・アセット・マネジメント
東京都千代田区大手町1-5-1大手町 ファーストスクエア
イーストタワー

＜お問い合わせ先＞ 投信営業部 03-5293-3700
（受付時間：営業日の午前9時～午後5時、土、日、祝日除く）

<http://www.ubs.com/japanfunds>

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を電磁的方法により提供することが定められております。運用報告書（全体版）は以下の方法でご覧いただけます。

＜閲覧方法＞

上記の委託会社のホームページアドレス⇒「ファンド検索」にファンド名（日経新聞掲載名でも可）を入力⇒表示されたリストの「ファンド名」欄にある当該ファンドの名称をクリック⇒「運用報告書（全体版）」のタブをクリック

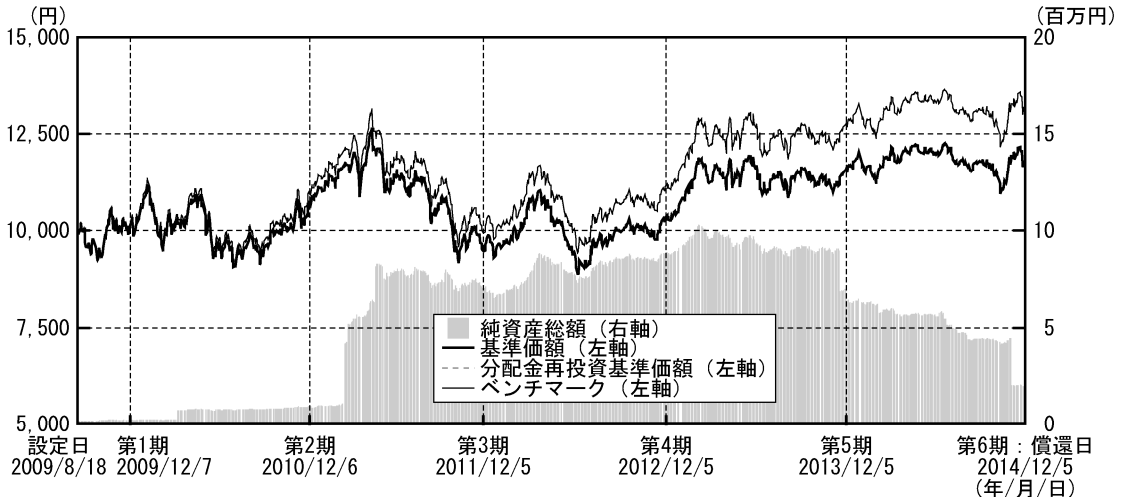
なお、運用報告書（全体版）は受益者のご請求により交付されます。書面をご希望される場合には、販売会社までお問い合わせください。

©UBS2015. キーシンボル及びUBSの各標章は、UBSの登録又は未登録商標です。UBSは全ての権利を留保します。

運用経過

基準価額等の推移について

<基準価額等の推移（2009年8月18日～2014年12月5日）>



第6期首 : 11,597円
 第6期末 (償還日) : 11,674.47円
 (既払分配金 0円)
 騰落率 : 0.7% (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまが利用するコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) ベンチマークは、設定日を10,000として指数化しています。

■当期（第6期）の基準価額は77.47円値上がりしました。その結果、基準価額の騰落率は+0.7%となりました。

<ベンチマークについて>

ベンチマークとは、ファンドの運用を行うに当たり、運用目標の基準あるいはパフォーマンスを評価するための基準です。なお、当ファンドのベンチマークは「UBSブルームバーグCMCI総合指数」を委託会社において円換算した「UBSブルームバーグCMCI総合指数（円換算ベース）」です。当ファンドは同指数に概ね連動する投資成果を目指して運用を行います。

※UBSブルームバーグCMCI総合指数は、UBSとBloombergが開発した世界の複数の代表的商品先物を複数年限指数化したもので、商品市況を反映する指数です。Constant Maturity Commodity Index Family (CMCI: コンスタント・マチュリティ・コモディティ商品指数) に関する著作権、およびその他知的財産権はUBSおよびBloombergに帰属します。

基準価額の主な変動要因

- 期首11,597円でスタートした基準価額は、期末（償還時）に11,674.47円となり、0.7%値上がりしました。基準価額の主な上昇要因は、マザーファンドを通じて組入れていた指数連動債が値上がりしたこと（主に為替相場で米ドル高・円安が進んだこと）などのプラス要因が、その他のマイナス要因を上回ったことです。

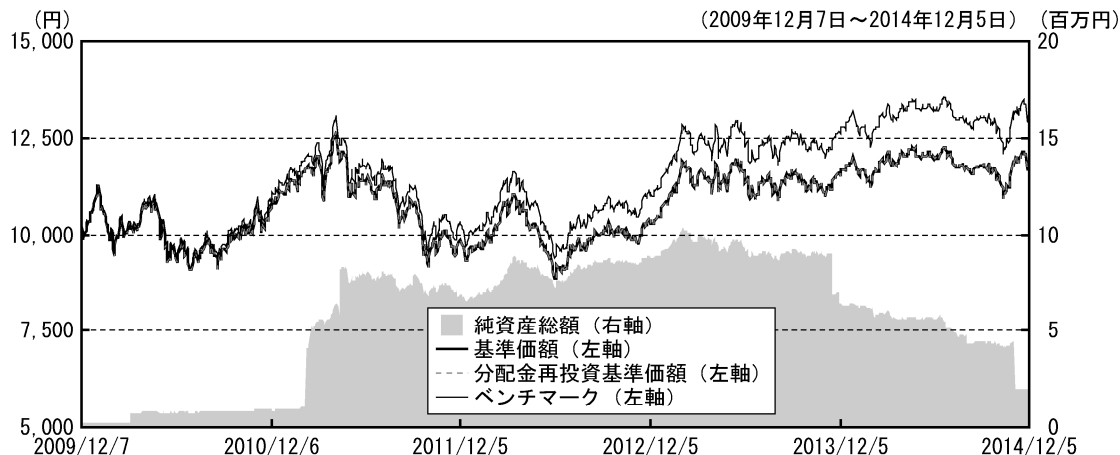
1万口当たりの費用の明細

項 目	当期 2013/12/6～2014/12/5		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬	109円	0.918%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額（月末値の平均）は11,875円です。
（投信会社）	（ 64）	（0.539）	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	（ 39）	（0.325）	運用報告書等各種書類の交付、口座内でのファンドに係る管理、購入後の 情報提供等の対価
（受託会社）	（ 6）	（0.054）	運用財産の管理、運用指図実行等の対価
その他費用	3	0.029	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（保管費用）	（ 2）	（0.013）	海外保管銀行等に支払う海外資産等の保管・送金・受渡等に係る費用
（監査費用）	（ 2）	（0.014）	監査法人等に支払うファンド監査に係る費用
（その他）	（ 0）	（0.002）	受益権の管理事務に関連する費用等
合 計	112	0.947	

（注1）期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

（注2）「金額欄」は項目ごとに円未満四捨五入してあります。「比率」欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

最近5年間の基準価額等の推移について



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまが利用するコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額、ベンチマークは、2009年12月7日の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

(注4) 海外の指数は基準価額の反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

	2009年12月7日 期初	2010年12月6日 決算日	2011年12月5日 決算日	2012年12月5日 決算日	2013年12月5日 決算日	2014年12月5日 償還日
基準価額 (円)	10,343	10,632	9,883	10,262	11,597	11,674
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	2.8	△ 7.0	3.8	13.0	0.7
ベンチマーク騰落率 (%)	—	4.7	△ 4.8	6.5	15.5	2.5
純資産総額 (百万円)	0.2	0.9	6	8	6	1

(注) 「分配金再投資基準価額騰落率」および「ベンチマーク騰落率」は、表中の直前の決算日または期初からの騰落率です。

投資環境について (2013年12月6日～2014年12月5日)

■コモディティ市場

<エネルギー>

期初の原油市場は、世界的な景気回復傾向による需要拡大期待に加え、米北東部の寒波予報からの需要増加観測などが相場の押し上げ要因となりました。2014年に入ると、生産障害があったリビアの操業再開を受けて一時大きく下落しましたが、その後はウクライナでの軍事的緊張の高まりや、リビア、イラクなどの原油産出国における供給不安などによる需給引き締め観測を受けて、期の中盤にかけては概ね堅調に推移しました。6月下旬以降は、イラク情勢やウクライナ情勢などの地政学的懸念材料は解消されていないものの、原油供給には目立った障害が発生しておらず、地政学的リスク要因の相場の押し上げ圧力は弱まっていることに加え、欧州や中国の景気減速懸念や為替市場におけるドル高が大きく影響して、下落基調が続きました。

<工業用金属>

当期の工業用金属市場は、2014年初めに、中国の不良債権問題が懸念されたことに加え、2月初旬にかけては新興国経済全体への懸念が強まったことなどを受けて、下落しました。その後、新興国経済への懸念が一服し、世界景気の回復観測が強まり各市場における在庫も減少傾向をたどる中、概ね上昇基調で推移する展開となりました。8月に入ると、欧州や中国の景気の先行きに不安が強まったことやウクライナ情勢の緊迫化などが下押し材料となり下落すると、その後も欧州景気的大幅な減速や中国景気の下振れ圧力が意識される中、米国を含めた世界景気全体の減速が懸念されはじめ、加えてドル高の進行などが嫌気されたため、弱含みに推移しました。期末にかけては世界景気の減速懸念が幾分後退する中で、やや持ち直す動きとなりました。

<貴金属>

貴金属市場においては、金相場は、期初、良好な米経済指標を背景とした量的金融緩和早期縮小観測が強まり下落して始まりましたが、2014年に入ると、新興国経済の先行き不透明感から安全資産としての需要が高まり、反発しました。その後、米量的金融緩和縮小ペースが緩められるとの観測やドル安が進行しドル相場の動きと逆行しやすい性質から一段高となりました。2014年3月下旬には、米での利上げ時期の前倒し観測が台頭したことなどが嫌気され、期の半ばにかけて軟調となりました。期の後半は、はじめ、米での金融緩和と政策の当面維持の方針が好感されたことやイラク情勢の緊迫化を受けて投資需要が高まったことなどから急伸びしましたが、その後は地政学的緊張が引き続き買い材料となるものの、ユーロ圏経済の先行き不透明感と米早期利上げ観測を背景にユーロ安・ドル高が進行したことなどから下落基調での推移となりました。

<農作物>

期初の穀物市場は、穀倉地帯での農作物に適した天候が続き、豊作観測が台頭したことや米国産の期末在庫見通しの引き上げ観測などから上値の重い展開となりました。2014年2月に入ると、米国産トウモロコシの好調な輸出やブラジルの天候不順に加え、トウモロコシ輸出上位国ウクライナの政情悪化を受けて、米国産などに代替としての引き合いが強まるとの観測から上昇する展開となりました。その後は、穀倉地帯の好天を背景に作付けが急ピッチで進んだことや、米国生産高が過去最高を記録するとの見通しなどから需給緩和観測が強まり、穀物市場は下落基調となりました。また、期末にかけてのドル

高の進行も、米国産の輸出競争力が低下するとの見方から売り材料となりました。

<セクター別騰落率（米ドルベース）>

エ ネ ル ギ ー	農 産 物	工 業 用 金 属	貴 金 属	家 畜
△25.9%	△10.9%	△0.3%	△6.2%	25.2%

セクター別：UBSブルームバーグCMCI総合指数の各セクター、米ドルベース

出 所：ブルームバーグのデータを基に当社作成

■米ドル／円相場

当期（第6期）の為替相場（米ドル／円）は、期初比で円安・米ドル高の水準で期末を迎えました。期の前半は、米国経済に対する楽観論や、日本の追加的金融緩和への期待が高まる一方、ウクライナ、イラク情勢の緊張状態が長期化するとの見方から、米ドル円相場はもみ合いの展開となりました。期の後半は、堅調な米国景気を受けての米国での利上げ観測を背景に、円安・米ドル高基調となった後、一旦は世界経済の成長懸念から円高・米ドル安に振れる場面もありましたが、その後は再び円安・米ドル高が急速に進みました。

<米ドル／円レートの推移（2009年8月18日～2014年12月5日）>



ポートフォリオについて

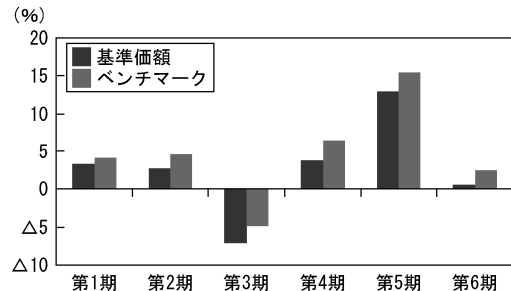
- 当ファンドは、UBSコモディティ・マザーファンドを高位に組入れ、ベンチマークであるUBSブルームバーグCMCI総合指数(円換算ベース)に概ね連動する投資成果を目指して運用を行ってまいりました。なお、償還時における有価証券の組入れはありません。

ベンチマークとの差異について

- 当期(第6期)中の騰落率は、基準価額の+0.7%に対してベンチマークが+2.5%となり、基準価額の騰落率はベンチマークの騰落率を1.8%下回りました。

基準価額の騰落率がベンチマークの騰落率を下回った主な要因は、流動性確保のために資産の一部を短期金融資産で運用したこと、設定・解約に伴う資金の出入りとマザーファンドで組入れられた指数連動債の売買のタイミングがずれたことや信託報酬や信託財産の管理に要する費用(保管費用、租税等を含みます。)を負担したことなどです。

＜基準価額とベンチマークの対比(騰落率)＞



基準価額の騰落率は分配金再投資ベース

分配金について

- 当期(第6期)までに信託財産中に留保されてきた利益につきましては、償還価額に含みお支払いいたしております。

お知らせ

- 約款変更のお知らせ

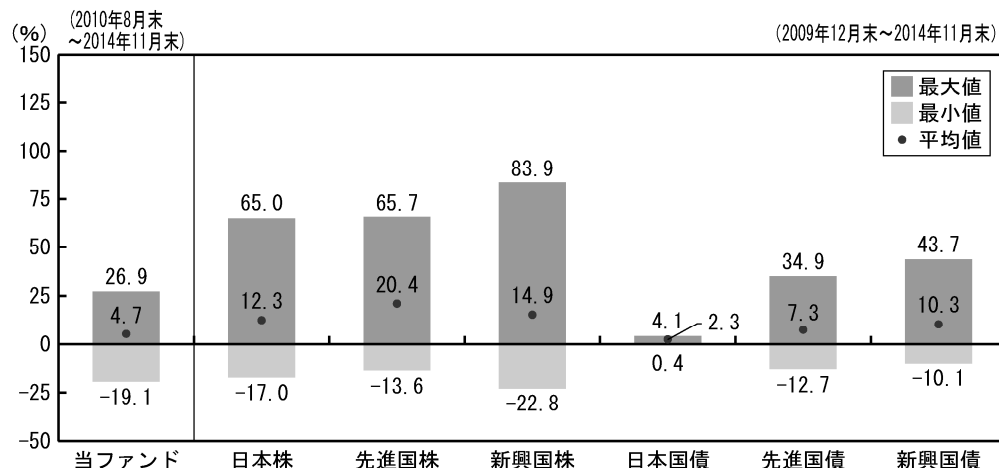
平成26年12月1日の金融商品取引業等に関する内閣府令及び投資信託及び投資法人に関する法律等の改正(受益者書面決議制度の見直しに伴う変更、運用報告書の提供方法、並びにデリバティブ取引等に係る投資制限の管理方法等)に伴い、当ファンドの信託約款の該当する条項に所要の変更を行いました。(約款変更実施日:平成26年12月1日および平成26年12月5日)

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／その他資産（商品先物）／インデックス型	
信託期間	信託設定日（2009年8月18日）から2014年12月5日まで	
運用方針	マザーファンドへの投資を通じて、世界の代表的商品市況を表すUBSブルームバーグCMCI総合指数（円換算ベース）に概ね連動し、世界の商品市況を反映する投資成果を目指して運用を行います。	
主要投資対象	ベビーファンド ＜UBSコモディティ・ファンド（UBSブルームバーグCMCI連動型）＞	UBSコモディティ・マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	マザーファンド ＜UBSコモディティ・マザーファンド＞	UBSブルームバーグCMCI総合指数に価格が連動するユーロ円建て債券等（商品指数連動債等）を主要投資対象とします。
運用方法	ベビーファンド ＜UBSコモディティ・ファンド（UBSブルームバーグCMCI連動型）＞	マザーファンドの組入れは原則として高位を維持します。 リスク軽減のためデリバティブ取引を行うことがあります。 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
	マザーファンド ＜UBSコモディティ・マザーファンド＞	投資成果をベンチマークであるUBSブルームバーグCMCI総合指数（円換算ベース）に概ね連動させるように運用を行います。 リスク軽減のためデリバティブ取引を行うことがあります。 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
分配方針	毎決算時（原則毎年12月5日、休業日の場合には翌営業日）に、原則として経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の中から市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配を行わない場合があります。分配にあてなかった利益の運用については特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。	

※資金動向、信託財産の規模および市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

(参考情報) 当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



■ 上記は当ファンドについては2010年8月から2014年11月までの各月末、代表的な資産クラスについては2009年12月から2014年11月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、表示したものです。

(注1) 各資産クラスは当ファンドの投資対象を表しているものではありません。

(注2) 当ファンドについては、分配金再投資基準価額の年間騰落率が記載されているため、収益分配が行われた場合には実際の基準価額の年間騰落率とは異なります。

(注3) 騰落率は直近の月末から最大60ヵ月さかのぼった算出結果であり、当ファンドの決算日に対応したものではありません。

(注4) グラフは、当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したのですが、当ファンドと代表的な資産クラスで対象となる期間が異なることにご注意下さい。

■ 各資産クラスの指数

日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株：MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円換算ベース）

日本国債：シティ日本国債インデックス

先進国債：シティ世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）

新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド（円換算ベース）

(注1) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

(注2) 詳細は最終ページの「代表的な資産クラスに関する指数について」をご覧ください。

ファンドデータ

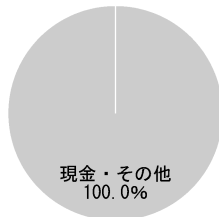
当ファンドの組入資産の内容

(2014年12月5日現在)

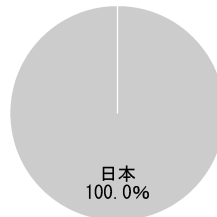
■組入上位ファンド（銘柄数：一）

償還時における有価証券の組入れはありません。

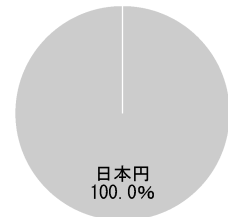
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分



（注）「資産別配分」、「通貨別配分」の比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合、「国別配分」の比率は当ファンドのポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

純資産等

項 目	第6期末：償還日 2014年12月5日
純資産総額	1,949,216円
受益権総口数	1,669,640口
1万口当たり基準価額	11,674円47銭

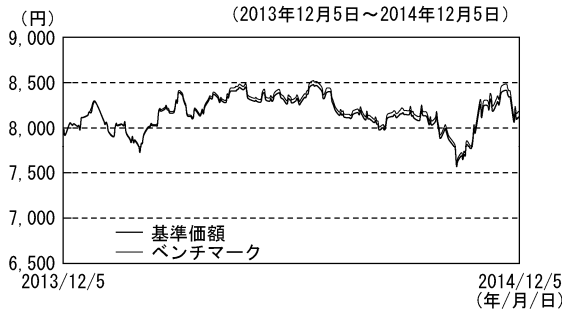
（注）当期（第6期）中における追加設定元本額は454,711円、同解約元本額は4,328,281円です。

組入上位ファンドの概要

<UBSコモディティ・マザーファンド>

(2014年12月5日現在)

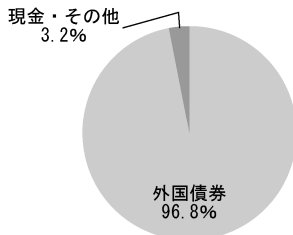
■基準価額の推移



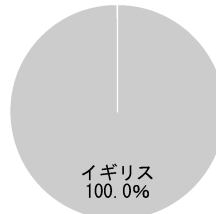
■組入上位銘柄 (銘柄数: 1銘柄)

	銘柄	種別	国/地域	比率(%)
1	UBS Bloomberg Constant Maturity Commodity Index USD Total Return	社債	イギリス	96.8

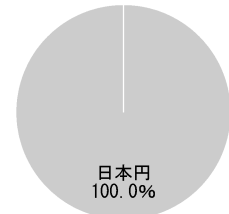
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分



(注1) 「基準価額の推移」はマザーファンドの直近の計算期間、「組入上位銘柄」、「資産別配分」、「国別配分」、「通貨別配分」はマザーファンドの直近の決算日現在のものです。

(注2) 「資産別配分」、「通貨別配分」の比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合、「国別配分」の比率はマザーファンドのポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

(注3) 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、「運用報告書(全体版)」をご覧ください。

■1万口当たりの費用明細

項目	金額
その他費用 (保管費用)	1円 (1)
合計	1

(注1) 「1万口当たり費用明細」は、マザーファンドの直近の計算期間のものです。費用項目の概要については、2ページ「1万口当たりの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。

(注2) 各項目は円未満四捨五入してあります。

(注3) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

※当マザーファンドの運用経過につきましては、「運用報告書(全体版)」をご覧ください。

代表的な資産クラスに関する指数について

<東証株価指数（TOPIX）（配当込み）>

■東証株価指数（TOPIX）は、株式会社東京証券取引所（（株）東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウ及び東証株価指数（TOPIX）の商標又は標章に関するすべての権利は（株）東京証券取引所が有しています。なお、本商品は（株）東京証券取引所により提供、保証又は販売されるものではなく、（株）東京証券取引所は、本件商品の発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

<MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）>

<MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円換算ベース）>

■MSCIインデックスに関する著作権、およびその他知的財産権はMSCI Inc. に帰属しております。MSCI Inc. が指数構成銘柄への投資を推奨するものではなく、MSCI Inc. は当指数の利用に伴う如何なる責任も負いません。MSCI Inc. は情報の確実性および完結性を保証するものではなく、MSCI Inc. の許諾なしにデータを複製・頒布・使用等することは禁じられております。

<シティ日本国債インデックス>

<シティ世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）>

■シティ債券インデックスは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている債券インデックスです。騰落率の数字は、シティ日本国債インデックス・データおよびシティ世界国債インデックス・データに基づき当社が計算したものです。

<JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド（円換算ベース）>

■JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイドは、J.P.Morgan Securities LLCが算出し公表している指数です。当指数の著作権はJ.P.Morgan Securities LLCに帰属します。